

永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだより
令和7年5月発行 第217号
認定こども園西九州大学附属 三光保育園
TEL:0952-31-6877

☆5月・6月の「フリーデイ」について
保育園の支援センターを開放します。

※事前の予約はいりません

日時：5月26日(月)・28日(水)

6月5日(木)・6日(金)・13日(金)16日(月)



♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。

(平日の9:30~17:00まで)

※毎月第3火曜日の14時~16時までは、西九州大学短期大学部教員による、食育相談を行っています。事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

「遊びの中で色々な動きを経験しましょう」

園庭にはつつじの花が色鮮やかに咲いています。その傍らでは、花びらを使った色水遊びが始まりました。年中・年長組のお兄さんお姉さんのすることを興味津々に見つめる新入園児さん達のまなざしがキラキラ輝いている今日この頃の園庭です。

さて、新年度がスタートして1カ月経ち、子ども達の動きも多様になってきました。黙々とダンゴムシ探しをしたり、泥団子づくり、基地づくりなど、生き生きと友達と一緒に遊び始めました。ドッジボールやバスケットボールも盛況で、周囲にいる保育者達も誘い込まれて一緒に汗を流しているところです。その様子をよく観察していると、まだ投げられたボールをキャッチできない、遠くまで投げることができないなど、子ども達の動きに偏りがあることに気付きました。

文科省の「人間の動きを支える基本の動き36」は、「体のバランスをとる動き」「体を移動する動き」「人や物などを操作する動き」に分けられていますが、幼稚園や保育園では子ども達の年齢に合わせて、その動きを取り入れた遊びを提供できるようにしています。ご家庭でも、ふれあい遊びや公園などでたくさんの動きのある遊びを体験してほしいと思います。

外遊びが盛り上がる季節となりました。戸外で、親子一緒に楽しみましょう。

(三光保育園長)



☆親子で楽しくじゃがいもほり体験しませんか！

★日時 ①5月20日(火)10:00~12:00 ②5月22日(木)10:00~12:00

内容:じゃがいも掘りの体験(対象:2歳以上)(両日先着10組)

場所:佐賀市金立公民館駐車場(現地集合・現地解散)

持ってくるもの:帽子、手袋(軍手)、シャベル、おしぼり、お茶、おやつ、着替えなど

※掘ったじゃがいもは買い取れますので、小銭と袋を準備して下さい。

☆5月・6月の講座について

5月13日(火)…環境講座「アロマの虫よけスプレーづくりとSDGs」(先着6組:材料費800円)

☆6月の「子育て支援事業」のお知らせ

6月18日(水)…赤ちゃんの日(ベビーダンス)(先着10組)

※上記の子育て支援事業は、事前に電話での申し込みが必要です。

5月分の申し込みは、5月1日(木)から受付けます。6月分は、6月2日(月)からです。



★様々な状況により、計画の変更や中止がある場合があります。お出かけの前にホームページで支援事業の有無をチェックしてください。

☆いよいよ6月から「なかよし1歳」

「なかよし2歳」が始まります。

6月9日(月)…なかよし2歳

6月10日(火)・11日(水)…なかよし1歳

1年間、よろしく願います♪

「シニアサロンぽぽら」

月に一回、地域の方にお越しいただき楽しいひと時を過ごしています。おしゃべりやモノづくりを楽しみませんか？

5月29日(木)・6月19日(木)

さんこう・ぽぽら(園庭を含む)開放の時間帯について

【開園日】◎月~金(祝祭日・お盆・年末年始を除く)

【時間】◎9:00~12:30

・園行事の為、ご利用できない場合があります。

・出前支援の場合は、担当職員が不在になります。

12:30~13:30 昼休み・準備の為閉園

13:30~16:00

※この時間帯のご利用の場合は、電話での申し込みをお願いいたします。



寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学部の窓から

子育て便り

「理科を好きになるためには？」

西九州大学 子ども学部 子ども学科 准教授 飯盛 啓生

子どもの「理科嫌い・理科離れ」という言葉は1980年代から言われるようになりました。この対策として、国は1996年からサイエンス・パートナーシップ・プログラム、2002年からスーパーサイエンスハイスクールといった事業を開始しました。また、民間においても数多くの科学イベントが開催されるようになっていきました。これらの事業によって子ども達の理科、科学への関心は高まったようですが、一方で、「理科嫌い」の子ども達も存在しているようです。

産経新聞の記事によると、2022年度の全国学力・学習状況調査において、「理科の勉強は好きか」を聞いたところ、小学校6年生の79.8%が「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答しています。多くの子どもが「理科好き」であるとの調査結果ですが、2018年度の前回調査からは減少しています。

「理科」や「科学」に子ども達の興味を持たせる手段として、図鑑や本は非常に効果的とされています。特にこれらは「知的好奇心」を高めることが指摘されています。子どもは生後6ヶ月から2歳にかけて「読み聞かせ」を行うことで好奇心の土台ができ、言葉を音から覚えることができると言われています。さらに、絵本や図鑑を見ながら音や文字を結びつけることができ、幼児期を過ぎるころには文字を理解するようになるとされています。したがって、絵本や図鑑を子どもの身近なところに置き、さらに一緒に読むことや読み聞かせをすることは、子どもが理科や科学の分野に興味を持つ可能性を高めるものと考えます。

子どもの「理科嫌い・理科離れ」は科学技術立国である日本の衰退に直結します。また、「持続可能な社会」を構築する上で科学的に物事を見ること、いわゆる「科学リテラシー」が重要とされています。

このように幼児期から「理科」、「科学」への興味を持つことは大切であると考えます。

参考文献：

長沼祥太郎：科学教育，39，114（2015）

産経新聞（2024）：

<https://www.sankei.com/article/20240505-Y66H7WYMW5O3NASLBZFT6LC32I/>（参照2025-04-01）

瀧 靖之：“脳”の専門家が選んだ「賢い子」を育てる かがくのおはなし”，宝島社（2023）

